



神戸の里山で、農業と食を通じた“SDGs な” 多文化交流機会の創出

神戸市長室国際部国際課

神戸の里山

神戸市には、市街地から 30 分圏内に、自然豊かな里山が広がっています。里山は水田や畑、森林、ため池、草原など多様な環境を内包し、それぞれに適応した動植物が生息・生育する生物多様性豊かな場所となっています。しかし、全国の事例に漏れず、神戸の里山においても少子高齢化、耕作放棄地の増加などの課題が見えてきています。



里山の風景

里山保全のための取り組み

里山の豊かな自然の恵みを享受するとともに次の世代に残していくためには、SDGs の観点を踏まえながら、持続的に生物多様性を守り、育てることが重要であり、市民・企業・学校・NPO・行政などのさまざまな主体がつながり、互いに連携していく必要があります。

そこで、神戸市では、2023 年 1 月に「KOBE 里山 SDGs 戦略」(https://www.city.kobe.lg.jp/a66324/kurashi/recycle/biodiversity/satoyama_sdgs.html)を策定し、目指すべき里山を実現するための方策を明らかにするとともに、さまざまな具体的施策を展開しています。

多文化ファーム事業の目的

このような全市的な方向性のなか、神戸で暮らす外国

人の方々にも里山の魅力を知っていただくとともに、その保全に携わっていただくための取り組みも進めています。

神戸市では、外国人住民と地域住民との相互理解・交流を促進するため、交流イベントの開催・支援や、地域行事などに外国人留学生などを派遣して交流・情報発信いただく多文化交流員事業などを実施しています。



地域の餅つき大会に参加する多文化交流員

しかし、これらの事業は一方的な発信や単発のイベントが多く、双方向かつ継続的な交流に結び付けることがなかなかできていなかったという反省がありました。

そこで、外国人住民と地域住民とが作物の選定から収穫までを協働で行うことで、「多文化ファーム」という 1 つの農地を核とした、持続的なコミュニティの形成につなげる多文化ファーム事業を立ち上げました。

さらに、収穫物による交流会や、竹林整備、竹細工など、里山の恵みを体験できるイベントを外国人住民と地域住民との協働により開催することで、多文化交流や里山の魅力を実感いただくとともに、参加者による里山の魅力の新たな発信につなげていきたいと考えています。

トライアル事業の実施

多文化ファーム事業の着手にあたって、まずは事業に必要な体制や作業、手続きなどを把握するとともに、

地域や外国人などの関係者の間で本格事業に向けた機運を醸成するため、2022年8月から12月までの期間でトライアル事業を実施しました。

トライアル事業では、JA兵庫六甲のご協力のもと、まずは事業実施場所を確保したうえで、地域の方に農地管理や農作物の育成、交流事業の運営を委託しました。

また、地域の方々と協議する中で、多文化ファーム事業を地域の小中学生の教育に役立てたいというご意見をいただきました。

そこで、神戸市の小中学生の英語実践および多文化理解の場の提供を目的に加え、ALT（外国語指導助手）の協力もいただきながら、地域の小中学生および市内在住外国人留学生を対象に、外国の料理でよく使われる野菜（ニンジン、じゃがいも、コールラビ、レモングラスなど）の栽培や、収穫物を用いた食事交流会などの体験型交流プログラムを英語により実施しました。



育苗キットの作成ワークショップ



自宅で育成した苗を一緒に植え付け

また、市内の外国人学校の児童生徒にもお声がけし、地域の小中学生と交流しながら、竹林整備活動を通じて採集された竹を用いて、オリジナルの竹とんぼをつくるワークショップも開催し、里山整備に関する啓発とともに、日本文化を通じた交流を行いました。



竹とんぼづくりワークショップ

さらに、ロシア侵攻に伴うウクライナからの避難民の方々も多文化ファームに招待し、ウクライナ料理によく使われる野菜（ピーツやじゃがいもなど）を一緒に育てることを通じて、避難民の方々にも地域住民との交流や里山の魅力を楽しんでもらうとともに、地域の小中学生には、ウクライナ情勢を身近な問題として意識してもらうためのきっかけ作りを行いました。



収穫物の一部はウクライナからの避難民に寄付

事業評価および今後の方向性

参加者からは、違う文化に触れたり、農業を体験できたりしたことが良い経験になったという声や、もっと英語を話せるようになりたいと思ったという声をいただくことができ、一定の目的は達成できたと考えています。

しかし、今回のトライアル事業のように、行政が主体となって実施する事業では、地域住民と外国人住民による主体的かつ双方向型の交流はなかなか生まれず、また持続可能な事業にはなり得ず、このままでは外国人住民と地域住民のコミュニティの形成とまでは難しいと考えています。

そこで、今後は、市内の各地で地域住民と外国人住民が主体となって企画し、取り組まれる活動を積極的に支援することで、外国人住民と地域住民の自主的なコミュニティ形成につなげていきたいと考えています。